J

AirWired™

デスクトップオーディオシステム

TSX-W80

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。
● 異常に高温になる。
● 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。
● ステープルで止めない。● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。
● 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右10cm、上15cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

心臓ペースメーカーまたは除細動器などを装着している人から22 cm以上離して使用する。
ペースメーカーに影響を与え重大事故につながる場合があります。

使用上の注意

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
本体の⏻ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

付属のACアダプターを使用する。
それ以外のものを使用すると火災の原因となることがあります。

ACアダプターは、布や布団でおおったり、つつんだりしない。
熱がこもり、ケースが変型し、火災の原因となることがあります。

電池

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

指定以外の電池は使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

再生の前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。
色むらが起きることがあります。

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

■ 特長

– iPod、iPhone、ラジオ、外部機器を高品質で再生。
– コンパクトなボディながら、2.1ch スピーカーシステム（ツイーター× 2、ウーファー× 1）、SR-Bass™（エスアールベース）（ヤマハスイングラジエーターベース技術）と DSP により、しっかりした低音と立体的で広がりのあるサウンドを実現。
– ノブダイアル、ガイド LED 付きスイッチによる、直感的でわかりやすいユーザーインターフェース。

■ Yamaha AirWired（エアワイヤード）

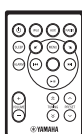
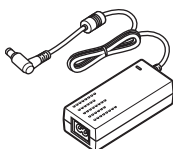
ヤマハ独自のデジタルワイヤレス伝送技術「AirWired（エアワイヤード）」により、非圧縮で音質劣化のない音楽をリアルタイムで再生。さらに、お手元に置いた iPod で、本機のシステムオン / オフや音量操作が可能です。

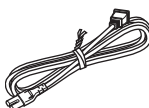
別売りのワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W10 など）と組み合わせてサブウーファーを接続する事で、サブウーファーをワイヤレス再生することが可能です。使い方については SWK-W10 の取扱説明書をご覧ください。

■ 本書について

- 本機は iPod と iPhone に対応しています。本文中の iPod という表記は iPhone も含みます。
- 本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、本体での操作を中心に記載しています。

■ 付属品

リモコン

AC アダプター

(DC 15 V、2.66 A、
モデルナンバー：
NU40-2150266-I3)

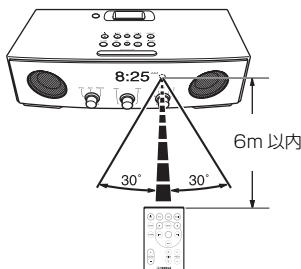
電源コード

トランスミッター

YIT-W11TX

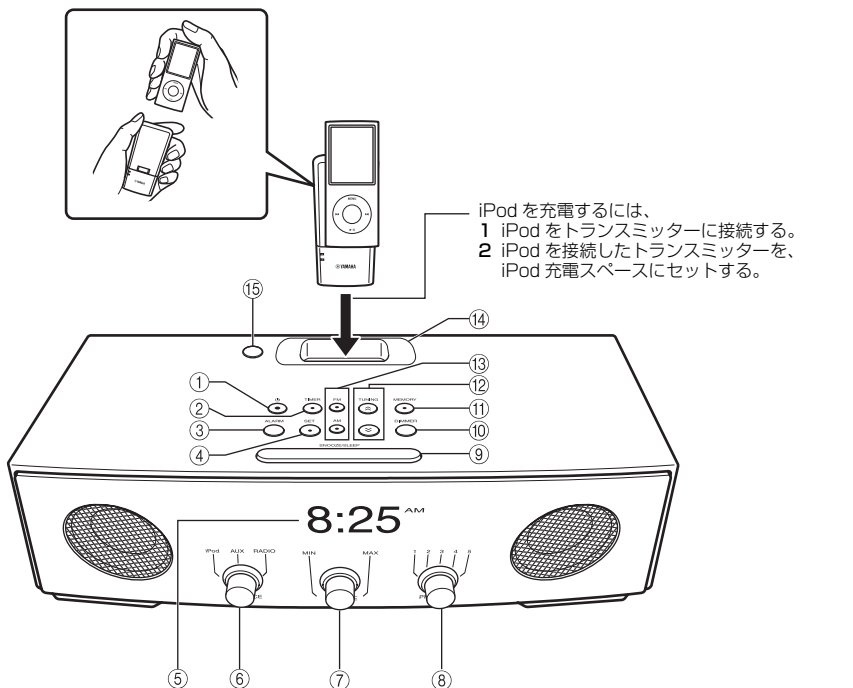
FM 簡易アンテナ

AM ループアンテナ

ステッカー

■ リモコンを使用する

■ リモコンの電池を交換する

各部名称とその機能

■ フロント・トップパネル

① ⏻：システムオン / オフ切替
システムオフ時にも時刻は表示されます。

- 本体の⏻ボタンを 3 秒以上押し続けると、システムがスタンバイに切り替わります。スタンバイ時には、フロントパネルディスプレイの表示がされなくなり、電力の消費を抑えることができます。スタンバイを解除するには、⏻ボタンを押します。
- システムオフおよびスタンバイ時でもアラーム機能は作動します。

② TIMER：タイマー設定（☞ P. 5）

③ ALARM：アラーム機能オン / オフ切替（☞ P. 4）

④ SET：アラーム設定（☞ P. 4）

⑤ **フロントパネルディスプレイ**

⑥ SOURCE：iPod、AUX、RADIO 切替

⑦ VOLUME：音量調整

⑧ PRESET：ラジオの放送局を FM/AM それぞれ 5 局まで登録 / 呼出ができます。（☞ P. 8）

⑨ SNOOZE/SLEEP（☞ P. 5）

⑩ DIMMER：フロントパネルディスプレイの明るさを調整できます。

A（オート）➔ 3（明るい）➔ 2 ➔ 1（暗い）➔ A へ戻る

A（オート）に設定した場合、自動的に室内の明るさに適した明るさに調整します。

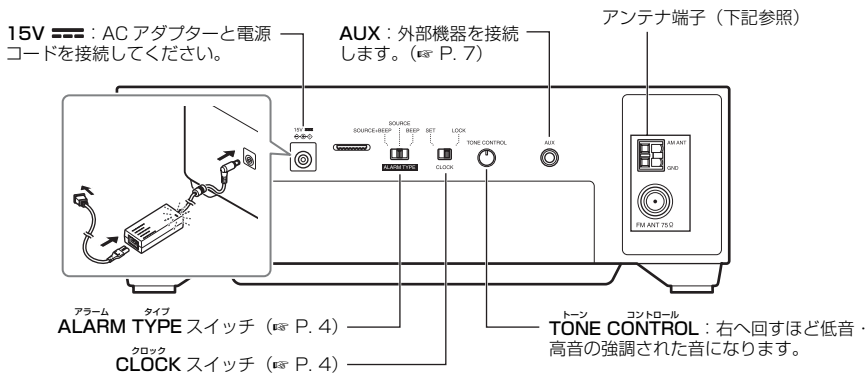
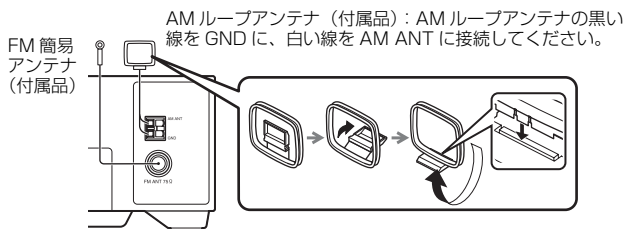
⑪ MEMORY （☞ P. 7，☞ P. 8）

⑫ TUNING（☞ P. 8）

⑬ **FM、AM**：FM/AM ラジオ切替

⑭ **iPod 充電スペース**：iPod の充電に使用します。

⑮ **照度センサー**：周囲の明るさを感知します。センサーが隠れないようにしてください。

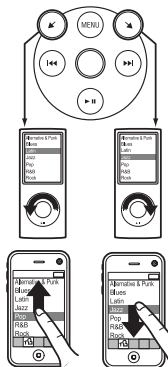
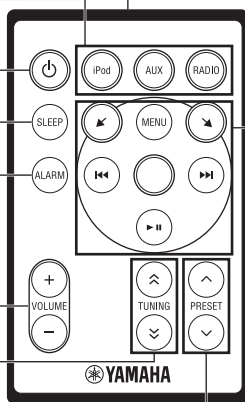
■ リアパネル

■ アンテナの接続

ご注意

- アンテナはしっかりと張ってください。
- 受信状態が悪い場合は、アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。
- 付属のアンテナの代わりに屋外アンテナを使用すると受信状態が良くなります。

■ リモコン

基本的な機能

時計を合わせる

リアパネル　フロントパネルディスプレイが点滅します。

1 CLOCK スイッチを SET に合わせる。

2 TUNING ボタンで時刻を合わせる。
ボタンを長押しすると、時刻を早送り / 早戻しできます。

3 CLOCK スイッチを LOCK に合わせる。

ご注意

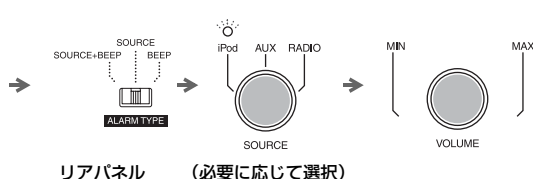
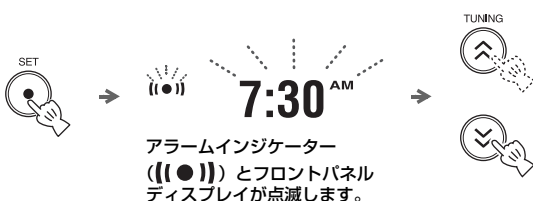
電源コードをコンセントから抜くなどして、電力が 1 週間以上供給されないと、時計の設定はリセットされます。

アラームを設定する

設定した時刻に、お好みの音楽とビープ音を合わせて再生することができます。

■ アラームの時刻、タイプを設定する

アラームインジケーター（((●))）とフロントパネルディスプレイが点滅します。

リアパネル　（必要に応じて選択）

1 SET を押す。

2 TUNING ボタンでアラーム時刻を設定する。

3 ALARM TYPE スイッチでアラームタイプを設定する。
- SOURCE+BEEP：選択した音楽ソースとビープ音を再生します。
  – 音楽ソース：アラーム時刻の 3 分前から再生
  – ビープ音：アラーム時刻に再生
- SOURCE：選択した音楽ソースを再生します。
- BEEP：ビープ音を再生します。

SOURCE+BEEP、SOURCE を選択したときは、次に音楽ソースを選択してください。
- iPod：最後に聞いていた曲の続きから再生します。
- RADIO：最後に聞いていたラジオ局の放送が流れます。

4 アラーム音量を設定する。

5 SET を押す。
アラームが設定され、アラームインジケーター（((●))）が点灯します。

ご注意

音楽ソースに iPod を選択したときは、iPod を iPod 充電スペースにセットしてください（☞ P. 2）。アラーム時刻に iPod がセットされていない場合、ビープ音が再生されます。

■ アラーム機能をオン / オフにする

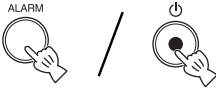
アラーム機能をオン / オフにする。
アラーム機能がオンのとき、アラームインジケーター（((●))）が点灯し、アラーム時刻が一定時間表示されます。

アラーム音再生中の操作

設定した時刻になると、選択したアラーム音が再生されます。再生中は、下記の操作が可能です。

■ スヌーズ機能を使用する

SNOOZE/SLEEP を押す。
一時的にアラーム音を停止し、5 分後に再びアラーム音を再生します。

■ アラーム音を停止する

ALARM もしくは⏻を押す。

- アラーム音を停止しないと、60 分後に自動的に停止します。
- アラーム音を停止しても、アラーム時刻など設定した内容は保持されます。

スリープを設定する

設定した時刻になると、自動的に音楽の再生を停止し、システムオフになります。

繰り返し押します。

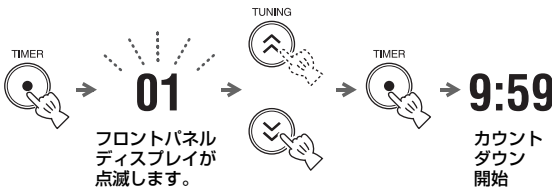
スリープインジケーター（zz）とフロントパネルディスプレイが点滅します。

SNOOZE/SLEEP でシステムオフになるまでの時間を選ぶ。
30、60、90、120 分が選択できます。スリープが設定されると、スリープインジケーター（zz）がフロントパネルディスプレイに表示されます。

スリープをキャンセルするには、SNOOZE/SLEEP を押します。

タイマーを設定する

カウントダウンタイマーを使用することができます。

フロントパネルディスプレイが点滅します。

カウントダウン開始

1 TIMER を押す。

2 タイマー音が再生されるまでの時間を TUNING ボタンで設定する。
時間は以下のように設定できます。
1 ～ 15 分：1 分刻み
20 ～ 120 分：10 分刻み

3 TIMER を押す。
カウントダウンが始まり、残り時間が 0 になるとタイマー音が再生されます。

- タイマー音を停止するには、TIMER を押してください。
- カウントダウン中にタイマーをキャンセルするには、TIMER を押します。

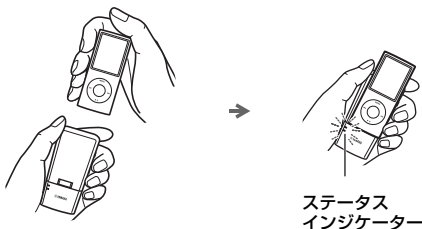
ご注意

スリープとタイマーは同時に使用できません。
- タイマーのカウントダウン中にスリープの設定はできません。
- スリープがオンのときにタイマーを設定すると、スリープはオフになります。

iPod™ と外部機器の音楽を聴く

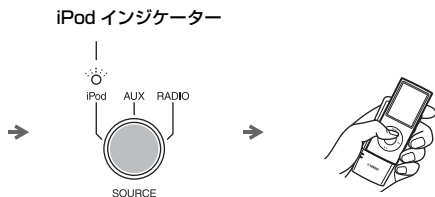
iPod™ を聴く

対応 iPod については、「主な仕様」（☞ P. 11）を参照してください。

■ 再生

1 **iPod をトランスミッターに接続する。**
2 **ステータスインジケーターが点滅し、本体とトランスミッターが通信を開始する。**
3 **SOURCE を iPod にする。**
4 **iPod を再生する。**

- iPod はいつでも好きなときに取り外せます。
- 本機がシステムオフ時でも、iPod のミュージック / ビデオを再生することで本機は自動的にシステムオンし、iPod を再生します。
- iPod を充電するには、iPod を本体の iPod 充電スペースにセットしてください（☞ P. 2）。
- iPod から本機の音量を調整することができます。
- SOURCE が iPod のときに iPod の電源をオフにするか、トランスミッターから iPod を取り外した後、しばらくすると本機は自動的にシステムオフします。

ご注意

- 再生中の iPod がトランスミッターに接続された場合、iPod の再生が停止します。
- 電子レンジやコードレス電話、無線 LAN 使用中には音が途切れることがあります。これらの機器からは本機をできるだけ離して設置してください。

■ トランスミッターのステータスインジケーター表示

インジケーターの表示		本機の状態
緑点灯		iPod の接続が完了し、無線通信できている状態。
緑点滅	1 回	音量調整中。
	継続	iPod の接続を確認中。
赤点滅	1 回	音量が最大、または最小。
	2 秒間	本機で対応していない iPod が接続された状態。
	継続	エラー発生。iPod を取り外して再接続してください。
赤 2 回点滅	継続	iPod のバッテリー不足。充電をしてください。
消灯		iPod が未接続、または、無線通信していない状態。

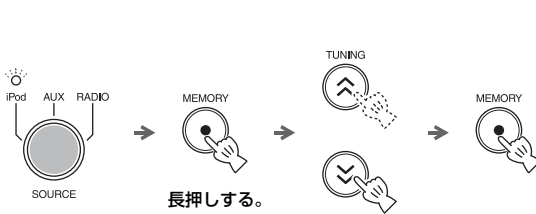
本体 SOURCE 上の iPod インジケーターは、
- 無線通信中に点灯します。
- 無線通信していない状態では点滅します。

ご注意

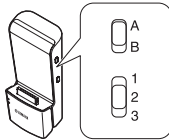
音が出ない、音が途切れる、ステータスインジケーターが点滅を継続し無線通信を開始しないなどの場合は、「故障かな？と思ったら」（☞ P. 9）を参照してください。

グループセレクト

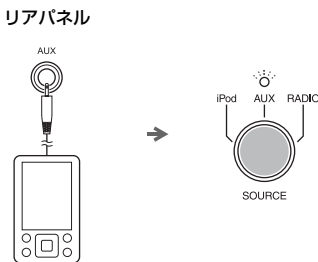
トランスミッターと本機の無線接続を行うには、グループセレクトを同じグループに合わせてください。

■ 本体のグループセレクトを設定する

1 SOURCE(ソース) を iPod にする。
2 MEMORY(メモリー) を長押しする。
3 TUNING(チューニング) でグループを設定する。
A1、A2、A3、B1、B2、B3 のいずれかを選択します。
B1 ～ B3 は b1 ～ b3 とフロントパネルディスプレイに表示されます。

4 MEMORY(メモリー) を押して設定を終了する。

■ トランスミッターのグループセレクトを設定する

グループセレクトスイッチでグループを設定する。

外部機器の音楽を聴く

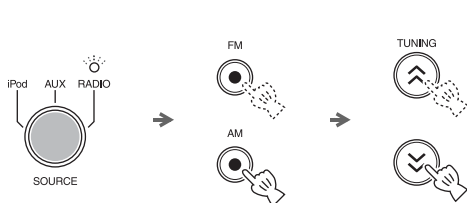
■ 再生

1 ポータブルオーディオ機器を市販の3.5mm ミニプラグケーブルで AUX に接続する。

ご注意

接続する前に本機とポータブルオーディオ機器の音量を十分に下げてください。

2 SOURCE(ソース) を AUX にする。
3 接続したポータブルオーディオ機器を再生する。

ラジオを聴く

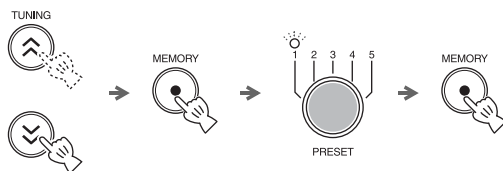
放送局を選ぶ

1 **SOURCE**（ソース）を RADIO（ラジオ）にする。
2 **FM、AM** を選択する。
3 自動チューニング：**TUNING**（チューニング）を長押しする。

手動チューニング：**TUNING**（チューニング）を繰り返し押す。

ご注意

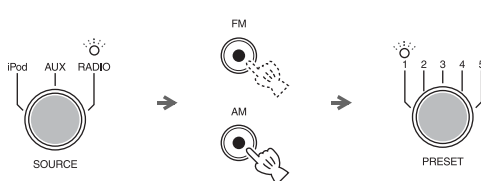
FM 受信中に手動でチューニングした場合、ラジオの音声はモノラルになります。

放送局をプリセットに登録する

プリセット機能を使って、お好みの放送局を FM/AM それぞれ 5 局まであらかじめ登録できます。

1 登録したい放送局を選ぶ。
2 **MEMORY**（メモリー）を押す。
3 登録したいプリセット番号を選ぶ。

プリセットを途中で止めるには、TUNING（チューニング）を押してください。

4 **MEMORY**（メモリー）を押して終了する。

登録した放送局を選ぶ（プリセット選局）

1 **SOURCE**（ソース）を RADIO（ラジオ）にする。
2 **FM、AM** を選択する。
3 登録した放送局を **PRESET**（プリセット）で選択する。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、まず下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、本機のシステムをオフにし、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または修理ご相談センターまでお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策
システムをオンにしてもすぐにオフになる。	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることを確認してください。
	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機のシステムをオフにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに差し、システムをオンにしてください。
スピーカーから音が出ない。	音量が最小に設定されている。	音量を調節してください。
	音楽ソースが正しく選択されていない。	正しい音楽ソースを選択してください。
音が突然出なくなる。	スリープ（☞ P. 5）を設定している。	本機のシステムをオンにして再生しなおしてください。
本機が正常に作動しない。	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機のシステムをオフにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに差し、システムをオンにしてください。
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。
時刻の設定内容が消えた。	本機への電力供給が 1 週間以上遮断されていた。	電力供給が 1 週間以上遮断されると、本機のメモリーに登録された時刻設定が消えてしまうことがあります。この場合は時刻を再度設定してください（☞ P. 4）。
アラームのソースに iPod を設定しても、アラーム時刻に iPod が再生されない。	iPod を接続したトランスミッターが、本機の iPod 充電スペースに接続されていない。	iPod を接続したトランスミッターを、本機の iPod 充電スペースにセットしてください（☞ P. 2）。
	ALARM（アラーム） TYPE（タイプ） スイッチが BEEP（ビープ） に設定されている。	ALARM（アラーム） TYPE（タイプ） スイッチを SOURCE（ソース）、もしくは SOURCE（ソース）+BEEP（ビープ） に設定してください（☞ P. 4）。
時計が点滅していて、操作ができない。	CLOCK（クロック） スイッチが SET（セット） になっており、時計設定中の状態。	CLOCK（クロック） スイッチを LOCK（ロック） にしてください。
音割れ、音の歪み、異音がする。	入力した音楽ソースの音量が大きい。本機の音量（とくに低音）が大きい。	VOLUME（ボリューム） で音量を下げるか、TONE（トーン） CONTROL（コントロール） で低音を調整してください。

iPod™

症状	原因	対策
iPod が充電されない。	iPod を接続したトランスミッターが iPod 充電スペースに正しく接続されていない。	一旦 iPod を接続したトランスミッターを本機から取り外し、再度 iPod 充電スペースに正しく差しなおしてください（☞ P. 2）。
音が出ない、またはトランスミッターのステータスインジケーターが点滅を継続し、無線通信を開始しない。	iPod がトランスミッターにしっかり接続されていない。	もう一度しっかり接続しなおしてください。
	イヤフォンが接続されている。	イヤフォンを取り外してください。
	トランスミッターと本機の距離が離れすぎている。	トランスミッターと本機の距離を近づけてください。
	iPod のバッテリー残量が少ない。	iPod を充電してください。
	iPod のソフトウェアが最新バージョンになっていない。	アップル社のウェブサイトから最新の iTunes ソフトウェアをダウンロードし、iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップグレードしてください。

症状	原因	対策
音が出ない。	iPod と本機が接続中の状態。	接続が完了するまで少々お待ちください。
	グループセレクトが合っていないため接続していない。	グループセレクトを合わせてください（☞ P. 7）。
	他の機器に無線接続されている。	グループセレクトを変えて、他のグループを選択してください（☞ P. 7）。
iPod の音量を調節しても音量が調節できない。 **リモコンの VOLUME（ボリューム） ボタンを押しても iPod の画面が変わらない。**	− 本機が対応していない iPod が接続されている。 − iPod がトランスミッターにしっかり接続されていない。 − iPod のソフトウェアが最新のものにアップデートされていない。	− 本機が対応している iPod を使用してください。 − iPod をトランスミッターにしっかり接続しなおしてください。 − iPod のソフトウェアを最新のものにアップデートしてください。もし最新のソフトウェアにアップデートしても解決されないときは、iPod をリセットしてください。
	− 1 台のトランスミッターに複数の機器が接続されている。	− 他のグループを選択してください（☞ P. 7）。
iPod を接続していないのに、突然音が出た。	他の機器に無線接続されている。	グループセレクトを変えて、他のグループを選択してください（☞ P. 7）。
無線通信中に音が途切れる。（トランスミッターの緑のステータスインジケーターと、本体 SOURCE（ソース） の iPod インジケーターが点滅）	トランスミッターからの電波が金属や人体で遮られている。	トランスミッターからの電波が金属や人体で遮られないように、持ち方や持つ位置、置き方や置く位置を変えてください。
	周囲に 2.4 GHz 帯の電波を出すもの (電子レンジ、コードレス電話、無線 LAN 等) がある。	電子レンジやコードレス電話、無線 LAN 等からは本機をできるだけ離して設置するか、それらの電源を切ってください。もしこれらの機器が IEEE802.11 n 対応の場合、本機に影響が出ないようチャンネル設定を変更してください。
	無線通信で使用している周波数にノイズが発生すると、本機は使用されていない別の周波数を探して移動します。この際、音が途切れることがあります。	故障ではありません。もし頻繁に音が途切れるときは、本機の設置場所を変えてください。

FM/AM 放送局の受信

症状	原因	対策
ステレオ放送になると雑音が多くなる。	アンテナが正しく接続されていない。	アンテナが正しく接続されていることを確認してください（☞ P. 3）。
	選択している放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の放送局の受信感度が良くない。	手動チューニングで雑音を軽減するか（☞ P. 8）、別売りの屋外アンテナを使用してください。
屋外アンテナを使用していても受信感度が悪い（音が歪むなど）。	マルチパス (多重反射) などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。

リモコンの操作

症状	原因	対策
リモコンで本機を操作できない。	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、「リモコンを使用する」（☞ P. 1）を参照してください。
	本機のリモコン受光部に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください（☞ P. 1）。
	リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。
	音楽ソースが iPod になっているが、無線通信が確立されていない。	iPod を再生し、無線通信を確立してください（☞ P. 6）。

主な仕様

■ プレーヤー部

iPod

- 対応 iPod.................. iPod（第 5 世代）、iPod classic、iPod nano、iPod touch
- 対応 iPhone......... iPhone、iPhone 3G、iPhone 3GS

AUX 端子

- 入力端子
  ....ステレオ L/R: 3.5 mm ステレオミニジャック

■ アンプ部

- 最大出力... 4 W + 4 W + 8 W（6Ω 1 kHz、10% THD）
- ドライバーユニット ... 4 cm フルレンジドライバー × 2
  5.5 cm ウーファー + SR Bass × 1

■ チューナー部

受信周波数範囲

- FM .... 76.0 ～ 90.0 MHz
- AM.. 531 ～ 1611 kHz

■ トランスミッター部

- 周波数.. 2.4 GHz
- 通信可能距離 .... 約 20 m（妨害のないとき）
- 同時接続台数
  .... 最大 7 台（場所や状況により異なります）

■ 総合

- 電源電圧 / 周波数 .... AC 100 V、50/60 Hz
- 消費電力.. 10 W
- システムオフ時消費電力.. 3.5 W
- スタンバイ時消費電力...................................... 1.0 W 以下
- 外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)
  ....260 × 90.3 × 141 mm
- 質量... 1.2 kg

仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めてご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

iPod™, iPhone™

iPod は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。
iPhone は、Apple Inc. の商標です。
「Made for iPod」とは、iPod 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
「Works with iPhone」とは、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。

お手入れのしかた
キャビネットを美しく保つため、柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

本機の無線方式について

「2.4」	2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「XX」	変調方式はその他の方式
「4」	想定干渉距離が 40 m 以内
▬▬▬	全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明及び電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けた通信機器を内蔵しております。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

**■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口**

ナビダイヤル(全国共通) **0570-011-808**

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通) **0570-012-808**

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

**北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125**

**九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367**

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011) 512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

名古屋　〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

大阪　〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in China　WS68040-1